

ゲンゼ浮世絵コレクションと黒谷和紙特別展

何鹿郡の

蚕糸業と伝統工芸のつながり



5/13(土)～5/21(日)

ゲンゼ博物苑 未来蔵2階
京都府綾部市青野町膳所1番地

お問合せ先：平日 TEL.0773-42-3181 土日祝 TEL.0773-43-1050

入場無料

10:00

16:00

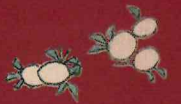
黒谷和紙企画展 ～800年の伝統を今に～

5/13(土)～5/14(日) ゲンゼ博物苑 集蔵

お問合せ先：黒谷和紙協同組合 京都府綾部市黒谷東谷3番地 TEL.0773-44-0213



何鹿郡の蚕糸業と伝統工芸のつながり



明治29年(1896)何鹿郡の人々の暮らしを豊かにするために郡是製絲を設立し、今年で128年目になりますが、同じ何鹿郡で紙づくりを盛んに行ってきた黒谷和紙は800年の歴史があります。その黒谷和紙は生活用として傘紙、障子紙などを主に生産していましたが、蚕糸業向けに蚕卵紙や繭袋紙も手掛けていました。そして明治中期から昭和初期にかけては、郡是製絲用に繭袋紙や生糸の包装紙も生産されていました。今回のグンゼ浮世絵コレクションは、江戸時代に活躍した浮世絵師をはじめ、蚕糸業で使われた和紙にまつわる初公開の作品も多数展示します。何鹿郡の人々の暮らしを支えた郡是製絲と黒谷和紙との繋がり合う歴史をお楽しみください。



溪斎英泉(1791-1848) 作品名不詳

江戸時代に美人画や風景画で活躍した浮世絵師。連作の中から所有している蚕三から蚕六までの4枚を展示。英泉の描いた作品は印象派の巨匠であるゴッホに影響を与えたとされています。



落合芳幾(1833-1904)

『蚕やしない草』

手に持っているのは蚕が卵を産み付けた蚕卵紙。蚕の種の売買には、大量に和紙が使われていました。



黒谷和紙の繭袋紙

郡是製絲は主に布製の繭袋を使用していましたが、増産に伴い黒谷和紙製の繭袋も使用していました。



歌川房種(生没年不詳) 『福人糸売買図』

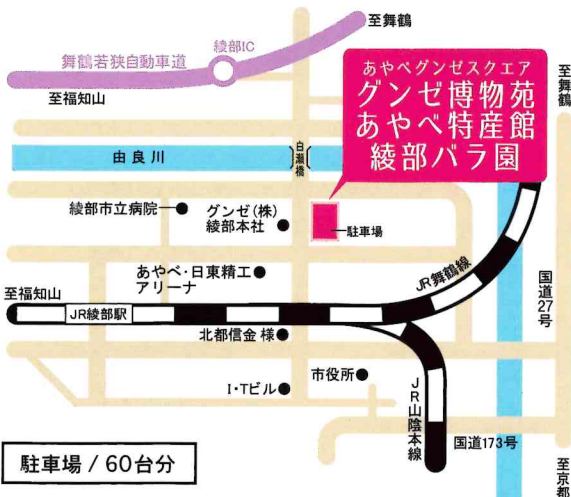
七福神(恵比寿・大黒天・弁財天・福祿寿)が商売人に扮し生糸を売買する問屋の様子が描かれている。今にも繭が溢れ出そうな繭袋や包装紙で包まれ束ねた生糸から、商売繁盛への願いが伝わってきます。

黒谷和紙企画展

～800年の伝統を今に～

黒谷和紙は、源氏との戦いに敗れた平家の落武者が、追手を逃れ山深い黒谷の地に隠れ住みながら、生活の糧として紙づくりを始め子孫に伝えたと言われており、起源は今から800年以上もさかのぼります。黒谷の歴史と技は、幾多の時代の変遷においても途絶えることなく今日まで受け継がれ、純手漉きにこだわった数少ない産地として現在も和紙を生産しています。今回の企画展では、そうした黒谷和紙の姿を一部ですがご紹介させていただきます。黒谷和紙の魅力を少しでも感じていただければ幸いです。

黒谷和紙は、源氏との戦いに敗れた平家の落武者が、追手を逃れ山深い黒谷の地に隠れ住みながら、生活の糧として



〒623-0011 京都府綾部市青野町「あやべグンゼスクエア」内
TEL 平日 0773-42-3181 土日祝 0773-43-1050



< 交通のご案内 >

●電車で JR山陰本線 綾部駅より徒歩約10分 ●お車で 舞鶴自動車道 綾部ICから車で約5分

綾部駅北口から徒歩約10分
または綾部駅南口からあやバス
「あやべグンゼスクエア前」下車すぐ